

2021年度 第2回 北栄町歴史民俗資料館運営委員会 議事録

日時 2021年12月1日(水)

午後1時15分～2時00分

場所 北条農村環境改善センター 小研修室

参加者 北栄町文化財保護委員 : 横濱純一・南場兄一・日置桑左工門・遠藤晃子
女性団体連絡協議会代表: 濱本武代
事務局: 手嶋寿征生涯学習課長・前田美友紀文化スポーツ推進室室長・
池口沙弥香文化スポーツ推進室主事・門脇博北栄みらい伝承館学芸員
欠席: 中前雄一郎(北栄町文化財保護委員)・吉田(老人クラブ連合会代表)・
松岡仁志(自治会長会代表)

1. 開会

2. あいさつ

委員長: 世の中はオミクロン株というものが出てきており、ワクチンの効果がきいてきて、これからというところだったので、緊張感を持っております。

北栄みらい伝承館での齋尾慶勝展を見させてもらい、非常に感動しました。主砲の飛距離が鳥取まで飛ぶなど、身近なものを例にあげてスケール感が表されており、とても分かりやすく工夫されていて、改めて齋尾さんだけでなく技術の素晴らしさが知ることができました。今日は、来年度のことをよろしくご審議いただきますようお願いいたします。

3. 報告事項

(1) 2021年度実施事業について…【P.1～2】

ア. 北栄みらい伝承館展示事業について

イ. 寄贈品について

委員長: 2021年度実施事業について、(ア)(イ) 続けてお願いします。

職員: 資料1ページ、(ア)の各企画展の入館者数を説明。「齋尾慶勝展」については、日本海新聞の海潮音に取り上げられたことから入館者数が増えていること、「不滅の刀展」については、現在開催中であるが最初の土・日では約100名/日の来館者があったことを説明。

(イ)では、本年度の寄贈受入状況を紹介。

委員長: ただ今の報告に関して、ご意見、質問がありましたらお願いします。

委員: 不滅の刀展の子ども向け講座の開催の意義は何でしょうか。なぜ子どもに、凶器ともなる刀をテーマにして講座を開くのでしょうか。

学芸員: 凶器ともなる日本刀ですが、歴史ある日本の伝統工芸であり、そういった日本の文化を、次代を担う子どもたちにも伝えていくとともに、その扱いを知ってもら

いたいからです。

委員：これは、以前にも話があったのですが、鉄は伯州の特産であり、鉄からできる刀の歴史を伝えることは、この地域の歴史を知るうえでいいことではないでしょうか。凶器については、危ないものだということをしっかり伝えればいいのではと思います。

課長：刀剣も凶器といえばそうなのですが、美術品として今後保存していく財産としては、これからを担う子ども達はその歴史や扱う上での注意点を知ることは大切な取り組みだと思っております。現在は、アニメ等の影響もあり、刀に興味を持っている方が多くいます。この機を逃さず、おっしゃられるように、鉄がこのあたりの特産であることもあり、子ども達にこの地域の歴史を知る一步目を提供するためにこの講座を企画しています。

委員：見田家の文書も見つかり、刀だけでなく、刀工や農具のことなど、子ども達がこの地域の鉄の文化を調べてみようと思うようなヒントを入れていただけたら、いいチャンスになるのかもしれないね。

室長：今回の展示が、県立博物館との共同企画展であり、講師も県立博物館の学芸員の方をお願いしています。参加者の年齢によるかもしれませんが、今回のご意見を伝えさせてもらい、刀だけでなく、この地域の歴史や文化も伝える機会にしていきたいと思えます。

委員：我が家の床の間にも摸擬刀が飾ってあり、日本刀に対する歴史的な意義は分かっているのですが、それを子ども達に伝えていただければと思います。

委員長：土日で100人／日ということでしたが、女性と男性はどちらが多かったですか。刀剣女子とって、備前でも女性が多くいらっしゃるようですが。

学芸員：トータルでは男性の方が多いです。しかし、興味のある女性もいらっやっています。

委員長：寄贈に関して、郷土に関する書籍とはどういったものでしょうか。

学芸員：多くは陶芸に関する全集であり、それは生田和孝さんの調査をするうえでの貴重な資料として寄贈を受けました。また、郷土に関するものという点では、例えば鳥取人名録や鳥取大百科事典のようなみらい伝承館にない書籍がありましたので、活用できると思い寄贈を受けました。

委員：昨日、NHKのいろドリという番組で加藤廉兵衛さんの関係の特集を見させていただきました。前学芸員さんが出ておられ、5年前からの加藤さんの工房の片付け作業や、前学芸員の方の工房も写っておりました。前学芸員の方の工房にある型や資料も多くあるということで、それは伝承館への寄贈品とのすみわけはどうなっているのでしょうか。また、保存会として、型を使って製作され、売っておられると聞いていますが、加藤廉兵衛さんが作られた本当の作品を分かるようにきちんと保存してもらいたいと思えますし、ご遺族の話では、廉兵衛さんの工房の片付けの際にはまったくお任せとしており、特に要望もしていなかったということですので、行政としてどう関わっておられるのか知りたいと思っております。

課長：ご遺族の方が、廉兵衛さんの資料を保存できないということで、前学芸員が現役

のころからかかわっています。しかし、資料を引き受けるにあたっては、町として引き受けると言ったのか、保存会（個人）として引き受けると言ったのかは分かっていません。今後、そのあたりも前学芸員と話し合いをしていきたいと思っています。また、作った作品を売っているというよりは、ワークショップの材料費としてお金をいただいているようですが、廉兵衛さんの型で同じようなものが作れますとしているようですので、これは贋作やコピー商品としてとらえられる可能性があります。そういった点をふまえて、これから前学芸員と保存のあり方についてもお話をさせていただき、それから行政としても立場を明らかにさせていただきたいと思っています。

委員：放送の中で、吉田璋也さんのお手紙があり、そういった大切な資料はみらい伝承館で保管していただき、行政としてかかわってもらいたいと思っています。

課長：ご遺族のお気持ちや、廉兵衛さんが弟子をとらなかつた歴史を考えると、どういった保存のあり方がいいのかは、また前学芸員とも一緒に話をさせてもらいたいと思っています。

委員：放送は見なかったのですが、鳥取の方から、後継者ができたようでよかったねと言われて驚きました。それは保存会のことだったのでしょうか。

室長：前学芸員は、以前から保存会を作りたいとはずっと言っておられました。しかし、どこまで進んでいるかなどは全く把握していませんでした。今回の寄贈についても、前学芸員を通して持ち込まれたもので、保存会で残すものとみらい伝承館に寄贈されるものをどういう基準で分けられたのかは聞いていません。もう少し、事実を確認したうえで、前学芸員と話をしていきたいと考えています。

委員長：では、(2) その他については何かありますか（特になし）。

4. 協議事項

(1) 2022年度事業計画について…【P.3～5】

年間展示計画、郷土の作家たち

委員長：それでは、2022年度事業計画についてお願いします。

学芸員：資料3ページをご覧ください。2022年度の展覧会のご案内ということで資料のとおり予定しています。

山下聖二展：県展等でも受賞歴のある、現在活動中の洋画家。150号の大作を含め展示。

砂丘開拓：みらい伝承館の継続したテーマ。これまでの展示内容を参考に企画。

北栄町の魚・鳥：中前先生のご協力のもと、写真パネルや魚拓・剥製を展示予定。

田熊常吉展：東園出身の明治・大正大発明家の一人で株式会社タクマの創業者。株式会社タクマにも協力いただきながら展示を企画予定。

吉田たすく展：ミュージアムネットワークとの共同企画。倉吉出身の染織家。北栄町内の多くの文化人とのつながりがあり、大栄中学校でも教鞭をとっていた。合わせて、常設展示室では、吉田たすく氏とゆかりのあった町内の作家の作

品を展示予定。

昔の生活道具：当館所蔵の民俗資料のなかから、懐かしい生活道具を展示予定。

北栄町の埴輪：北栄町で出土した埴輪を中心に展示予定。県立博物館にある鹿埴輪も合わせて借用予定。

常設展示：これまでの生田和孝、加藤廉兵衛作品に合わせて、福本和夫の梟コレクションも展示予定。できれば所蔵の平面作品も展示したい。

委員：吉田先生は倉吉生まれですか。江北出身だと思っていました。

学芸員：出自はもう一度確認します。ありがとうございます。

委員：青山剛昌氏も吉田たすくさんの教え子ということだが、それも紹介できないですか。

学芸員：ゆかりの人物として名前は紹介し、作品はふるさと館で見てもらおうようにします。

室長：年間計画表に入れることができるかは分からないので、ポスターやチラシに名前を入れてもよいか確認してみます。

委員：吉田先生の一番弟子で、倉吉の小田で活動されている古澤さんに思い出話など話してもらってはどうか。

委員長：そういうところは、また追加してもらったらと思います。2022年度の7本の企画展についてどうでしょうか。承認されますか。では、承認されるということで。その他ありますでしょうか。

委員：山本隆博さんの展示をぜひお願いしたいです。

委員長：それについては、次の郷土の作家たちについてをお願いします。

学芸員：前回の運営委員会で認めていただいた方向で打診し、2022年度については山下聖二さんに了解いただきました。2023年度については、前回の運営委員会では書道の小林さんとしておりましたが辞退されましたので、候補に挙げていた同じ書道の福新さんをお願いしたところ、高齢で大変だということでしたが受けていただきました。2022・2023年度についてはこのお2人をお願いしたいと思っております。その後の予定については、まだ先ですが表に掲載している山本隆博さん、日置華英さん、吉田収さんの中からお願いしていこうと考えています。

委員長：直近の2年についてはこのお2人をお願いするというので。山本隆博さんというお話もありましたが、早くて2024年度ということですね。

学芸員：そうです。

委員：県立美術館も2024年度に開館するので、県立美術館が先にされてしまう可能性もあるので。

職員：山本さん本人にはお願いしたい旨は伝えていきます。

室長：では、2024年度の有力候補ということで。

委員長：それでは、2024年度の有力候補ということで、県立美術館のオープンに合わせるかどうか検討しながら進めていくということでもいいでしょうか。

委員：その後の候補者が3名いますが、追加していただけますか。六尾出身の南場優（なんばまさる）さんです。武蔵野美術大学を卒業して、東京都で作家活動をされています。先日の育英同窓美術展にも彼の作品が出品されており、中央公民館

にも作品があります。かなり高齢ですので、できたら早めをお願いしたいです。

委員長：それでは、南場優さんも候補に入れていただくということで。その他協議事項について何かありませんか。(なし)

(2) その他

委員長：その他について何かありませんか。(なし)

5. その他

委員長：その他についてみなさんの方からも何かありませんか。

室長：次の文化財保護委員会でも説明しますが、文化財保存活用地域計画が認定されたこととともない、鹿埴輪をモチーフとし、文化財をPRしていくキャラクターを職員がデザインして作成しました。本物の鹿埴輪は、鳥取大学が所有しており、県立博物館で展示されています。キャラクター作成については鳥取大学に許可を得ています。季節に応じていろいろなことをさせたり（現在は水汲みバージョン）して、楽しく文化財を知ってもらおう活動にしていきたいと思っています。

委員長：ほかにありませんか。(なし) それでは、これで委員会を終了します。ありがとうございました。

7. 閉会